

ふるさと

顔の

No.407

辛いこともあったからこそ
これからは
楽しく朗らかに
暮らしていきたい



雑貨商などを営んでいた当時の宗像商店（建物左側：旅館、右側：雑貨店）



「家内や子供たちから、今までのしかめっ面した怖い顔じゃなくなつたねと言われるようになったんですよ」と笑いながら話すのは、今年4月まで5期20年間勤めた町議会議員を勇退された宗像一さん。宗像さんは、屈足で雑貨商と農産物の取引業などを営む家庭に生まれ、5人きょうだいの長男として育つた。「私の祖父らが福島県から北海道に開拓で入り、新得に最初に入った場所は福山地区でそこで農業をしていたようです。その後、屈足地区に移り住み雑貨商や旅館などを営んでいました。父親の弟らが旅館をやり、父親は雑貨商などのお店の方をやっていました。父親は体が弱くて自分ではあまり動けなかつたんだけど、商売に長けた人であるという手広く仕事をやっていて、水田もやっていました。子供の頃は、私も田植えや草刈りなどに行っていましたね。店のすぐ



はじめ さん (79歳)
朝日の1会
むねかた 宗像

目の前には森林鉄道が走っていて、駅もすぐ近くにありました。と当時の宗像商店の写真を見せながら話してくれました。

中学校卒業後、精米業を引き継ぐことになり、仕事をしながら新得高校屈足分校で定時制に通つた。当時の分校は公民館を間借りしていて、その後、屈足南小学校の校舎内に移つたりと転々としていた。「父親に大学に行きたいと言つたら、働きながら自分で金を貯めて行けつて言われてね。それでコツコツと貯金して、本州の大学にも受かつて、さあ大学に行くぞつてなつた時に家で騒動になつたんだよね。弟や妹にお兄ちゃんがいなくなつたらだめだと言われるし。最終的には祖父に説得されて、ここに残つたんです」と話す。

しかし、家業の商売は順風満帆ばかりではなかつた。「父親が面倒見が良かったのもあると思うんだけど、他人の保証人になつていてね。それがきっかけで家財道具などが差し押さえになつたりとね。あれは辛かつたなあ」としみじみと語つた。雑貨商は昭和38年に父

親が亡くなつた時に廃業した。その後、運送会社を手掛けたり、富村ダムの建設により整備工場が足りないとなると昭和49年に自動車整備工場を始めた。「ちよつとオイルショックの時で資材などが高騰して工場が建てられないのではと思つたが、融資などを取り付けて、何とか始めることができました」と話す。

昭和42年に屈足で理容師として働いていた千津子さんと結婚し、一男一女に恵まれた。

商工会の理事などを歴任したのち平成7年4月から20年間、町議会議員として活躍した。

「屈足地域の盛衰を見てきた者として、地域の過疎化を食い止めたという一心で活動してきた。20年間、皆様に支援していただいてやり遂げられた。今はね、みんなとパークゴルフやったり楽しくやっています。もつちよつとのんびりしたら息子に買つてもらつたカメラで写真を撮ろつかな」と話す。

新得町初のオリンピック選手として長野オリンピックで、スピードスケート3000mに出場した次女の記子さんは現在、カナダに在住。「2年に1回は帰つて来てくれるんだけど、今年帰つてきて『また再来年だね』って言うから、再来年は俺が生きてるかわからないぞつて言つてやつたよ」と穏やかな表情で笑つて話してくれました。

町長室から こんにちは

新得町長 浜田正利

春先から元気な皆さんの活躍を見る事が多くあり、町を明るくしてくれていると常々感じていますが、最近、改めて実感したことを報告します。

一つ目は、10月17日に開催された「ふれあい広場」です。例年、会場一杯に子どもから大人まで元気が溢れ、楽しみにしていた行事の一つですが、今年も例年と同じように元気が溢れていました。しかし、様々な理由から30回を迎えた今年が最後の開催とのお話があり、正直残念な気持ちになりましたが、新たな内容の交流の場を模索していくとこのことで安心しました。これまで30年間にわたり支えていただいた関係者の皆さんに改めて感謝を申し上げますとともに今後も地域の福祉向上のためにご協力をお願いします。

二つ目は、10月18日に本町のサホロリバーサイド運動公園で開催された「第33回北海道中学校駅伝競争大会」です。全道から男子では新得、屈足両中学校を含



む63チーム、女子では新得中学校を含む40チームが参加し、男子では6区間、女子は5区間を「たすき」をつないで健脚を競いました。駅伝なので一人では勝てないのは当然ですが、チーム全員でケガを含め体調管理を行い、競技レベルを維持する事の素晴らしさを感じたところです。なお、来年の第34回大会をもって本町での開催が終わる事になっていますが、その後も継続して本町で開催いただくようお願いをしたところです。

三つ目は、10月30日から開催された町民芸術祭です。特に、展示部門の子どもから大先輩までの作品の素晴らしさを感じました。舞台部門も全てを見ることは出来ませんでした。同じように感じたところです。継続して物事に取り組みることの大切さを実感しました。

四つ目は、10月31日に開催されました新得町体育連盟主催のスポーツ賞表彰式です。今回は、平成26年度に活躍した個人、団体が対象になりました。また、26年間にわたり小学生、中学生にサッカーの指導をされてきた方に奨励賞が授与されました。選手本人の努力が受賞に繋がりましたが、選手を支える家族、指導者、関係者の方々の協力が無いと結果は付いてこないと実感したところです。

四つの話に共通して言えるのは、当事者の努力はもちろんですが、本人を支える裏方の皆さんの協力があるから元気な皆さんの活躍に繋がると改めて感じたところです。今後も町全体を元気にするためにも大変かと思いますが、関係する方々の変わらぬご協力をお願いします。

短歌

新得短歌会

十五夜は奈良の都を照らし終え
紫雲の西空朝深き山に
奇藤美代子

乳のみ子の黒曜石たるその瞳には
いかな安に吾映るらむ
樋口かおり

冬むかふ朝のひ凜と輝やきか
きのふ孫より内定メール
中井由利子

洞爺湖の湖面に映へる火の花は
旅の一夜の想ひひとしほ
小野 洋子

持ち寄ればことば踊りて胸はずむ
歌留多操る子らを想うと
岡田御狸裸

紫蘇の実を抜けば指よりこぼれ落ち
香りおのずと厨に満つる
高橋 幸子

オリオン座流星群のひとりごと
取るに足りない人の悩みよ
菊地 康雄

大和路を鹿と戯れ月夜の宴
紫式部優しく揺れて
小野 恭子

俳句

新得俳句同好会

異郷の地飯の住まいや九月尽
片桐 波月

彩づきし葉をおよがせて秋の水
八木 育子

秋空に句友の句碑を懐かしむ
奇藤 青苔

人生も同じ運命か流れ星
月井 愁峰

紙吹雪散らすが如く銀杏枝
袴田ゆき男

駅ホーム時計を競う走りそば
大崎かずお

コスモスの一途に咲いて実となりぬ
高橋 民女

句碑開き亡友の声聴く花野かな
中島 土方